



橋 戸

令和3年1月29日

学校だより 第11号

練馬区立橋戸小学校

校長 青木 俊哉

心に届ける

校長 青木 俊哉

毎朝正門に立ち、登校してくる子供たちに「おはようございます。」と声をかけています。多くの子供たちが「おはようございます。」と挨拶を返し通り過ぎる…そのやり取りに、今週は若干の変化が見られます。挨拶の後お辞儀をして通り過ぎる子や、挨拶をしながらペコッと頭を下げる子が、明らかに増えています。中には、正門から中に入り昇降口前で私に気付く、わざわざ戻ってきて挨拶をする1年生もいる程です。

実は、週初めのオンライン全校朝会で、お辞儀の話題を取り上げました。子供たちに語先後礼の習慣が身に付いたことを皮切りに、頭を下げてお辞儀をする習慣のある国や地域、欧米のお辞儀、イタリア（セリエ A）のインテルというチームで活躍したサッカーの長友佑都選手が当時有名となった“ゴールを決めた後のお辞儀パフォーマンス”の話などを紹介し、場にふさわしい挨拶や心を込めて挨拶することの大切さについて考えさせ、話をまとめました。最後は、先月の生活目標であった「礼儀正しくしよう」にもつなげています。

即効性のある話を意図しているつもりはないのですが、話したことや伝えたことが成果に現れ、子供たちの行動に変化（成長）が見られたとしたら、それはそれで嬉しいことです。そういえば、寒くなり始めた時期に、“実際に手袋を見せながら…”ポケットに手を入れて歩く姿と比べて話した後には、手袋の装着率が上がったように記憶しています。また、「興味や関心をもったら、自分でも調べてみてください。」で話を終えると、その週の自学ノートに家庭学習の成果としてまとめてきた子供たちがいる話を、担任の先生から聞くこともあります。少しでも効果があるとわかると、私自身のモチベーションも上がります。

全校朝会、本校では毎週月曜の朝（昨年度までは週初めの朝）に行い、その中に毎回校長の話がありますから、年間に何十回も子供たちの前に立ち、話をしたことになります。数えたことはありませんが、前任校で3年、本校でもそろそろ3年経ちますから、かなりの回数になるはずですが、前任校時代は、離任式での子供の作文に「青木校長先生の朝会の話は、僕の大好きなスポーツやスポーツ選手の話が多いので…」と読まれる程でしたので、逆に橋戸ではあまりスポーツネタに特化せず、バランスよく話題を探しているつもりですが、どうでしょう。どうしても“人物を紹介しながら…”の話は多くなりますが、ほかには、時事的なネタだったり、ローカルニュース（練馬の話）を見つけたり、世界の出来事や自然・季節に関する話、もちろんスポーツの話題も取り上げますし、時には自分の過去（子供時代や担任の頃）の経験談も使います。今年度は、Zoom や Meet を使ったオンライン朝会が多くなったため、将棋の藤井聡太さんや水泳の池江璃花子選手の話の時には、新聞の記事や写真を見せながら話すこともできました。

全校朝会は、聞き手が1年生から6年生まで全校児童です。皆に関心をもたせ、低学年の子供たちにもわかるような内容や話し方…実は結構難しいものです。どこの学校の校長にとっても、悩みどころかもしれません。でも、今回のような場面に会おうと、「話してよかった。」と感じ、手ごたえにつながります。

“頭で理解し、できるようにする”ことが、授業のねらいの一つなら、“心に訴え、行動変容につなげる”ことが、こういった講話のねらいと考えられます。

子供たちの“心に届くこと”を願い、また来週も朝礼台に、いや当面は…ウェブカメラの前に立ちます。さて、今度は何を話しましょうか…!?